

分からないからと避けないで、障害者のことを知っていただく取り組み

障害や障害者に関する勉強会や講義よりも、一緒に収穫の作業をし、同じものを食べ、ゲームに興じるという行為を通して、障害者に対する思い込みや警戒心等が自然に解消されることを狙いとした地域交流の場を企画している。地域住民と利用者（障害者）との距離も徐々に縮まってきている。

京都府

社会福祉法人

みねやま福祉会

〒627-0005 京都府京丹後市峰山町新町2015-2 (もみの木)
TEL: 0772-69-5059 FAX: 0772-62-3059

○法人設立年/昭和27年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計: 12施設
②経営施設・事業【種別毎の数】:
乳児院…1、児童養護施設…1、保育所…2、障害児通園施設(児童デイサービス事業)…2、障害者地域生活支援センター…1、特別養護老人ホーム…2、老人短期入所事業…2、老人デイサービス事業…2、在宅介護支援センター…1、老人居宅介護等事業…2、居宅介護支援事業…2箇所、訪問入浴介護事業…1、身体障害者居宅介護等事業…1、児童居宅介護等事業…1、知的障害者居宅介護等事業…1、認知症対応型老人共同生活援助事業…2、小規模多機能型居宅介護事業…1、子育て短期支援事業…2

○法人の理念・経営方針

- <理念>
・創設の理念を尊重し より質の高い福祉サービスの提供
・地域の人々の ころろ豊かで安心・安全な暮らしへの貢献
・誇りと夢を持ち 福祉の仕事にまい進できるよう職員の幸福追求
<サービスの質(品質方針)>
・私達はサービス提供のすべての場面で「管理より生活」大切にします
・常に正しい情報の把握と提供に努め自分が受けたいサービスの提供・改善に努めます

○取り組みの法人での位置づけ等

事業計画の中に、地域貢献の1つとして「障害者と地域住民の交流の場を作り、障害に対する理解促進を図る」ことを明記し、年間の行事計画に2回の地域交流の場としての「芋掘り会」「イチゴ狩り」を挙げている。

○取り組みを実施している施設の概要

- 【施設名】
障害者地域生活支援センター もみの木
【施設種別及び利用定員】
障害者地域活動支援センター事業所 30名
障害者相談支援事業所

○活動内容

- 活動内容
◇活動開始年: 平成19年10月
◇活動の対象者:
事業所の近隣住宅地に住む住民とその家族。
◇活動の頻度・時間:
年2回、1回あたり2時間程度

活動実施の背景、実施にいたった理由

障害者のことが分からないのでなんとなく避け、どう付き合っているのか分からないのでとりあえず関わらない、という人達はまだ多いと感じる。当事業所開設後、隣地に新興住宅地ができた。家が建ち並ぶに連れて住民と利用者が路上で顔を合わせることも多くなった。

当事業所では、障害者と接することに特別な不安を抱かなくてもいい、少しの配慮はあるが普通に接すればいい、ということを近隣の住民に経験してもらいたいと考えた。そして、利用者が住民と出会えば、挨拶や立ち話も出来るようになればと願い、この企画を始めた。

実施内容

利用者が生産活動として、野菜を栽培している畑に、毎年多めのイチゴやさつまいろを栽培する。一定の区画をこの企画のために確保し、収穫期が近づくと近隣の各家庭に案内状を持参し、イチゴ狩りや芋掘りに招待する。当日は住民と利用者が一緒に作物を収穫し、事業所内活動室で、収穫したイチゴやさつまいろと一緒に食べ、簡単なゲーム等を楽しむ。そして収穫したイチゴやさつまいろの一部はお土産として持ち帰ってもらう。

活動効果(利用者や職員、地域などの反応、影響)

年に2回ではあるが、この機会を持ったことでお互いが顔見知りになり、普段顔を合わせても自然な会釈や挨拶が出来るようになってきている。顔見知りになり、事情を分かることによって、住民たちの不必要な不安もないと考える。

特に子ども達は、小さな頃から障害者と接する機会を持つことによって、障害に対して思い込みや偏見のない社会人になってくれることを期待している。

今後の課題及び展開

現在は隣接する新興住宅地の住民に限られているが、徐々に機会を広げていきたい。

生産活動で収穫した野菜等の配達や、販売を委託する商店への納品等に利用者が出向くことによっても、一般の人々との交流の機会となることを期待している。

主な経費や財源及び人員等

- ・ 取り組みに係わった職員数 7名
(職種等：指導員、相談員、施設長)

